



ハイライトよねやま144

1 寄付金速報 — 下半期の寄付状況 —

2月までの寄付金は前年同期と比べて2.4%減、約2,500万円減少の10億2,900万円となりました。普通寄付金が1.8%減、特別寄付金が2.7%減でした。普通寄付金の納入が1月末時点で前年度比274クラブ減と、入金が遅れが心配されましたが、2月末時点には前年度比122クラブ減となり、出足は遅いながらも、少しずつ入金状況が回復しつつあります。

震災から丸1年、被災地はもとより、その他の地域も経済状況等の厳しさが続きますが、今後とも引き続きご支援ご協力賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2 理事会開催報告 — 2013学年度は700人に —

公益財団法人に移行してから最初の理事会(2011年度第1回)が3月6日(火)、東京プリンスホテル(東京都港区)にて開催されました。

全国から31人の理事と3人の監事が出席。板橋敏雄理事長の進行のもと、1月3日までの特例民法法人としての事業報告・決算と、1月4日以降の2011年度事業計画・収支予算がそれぞれ原案通りに承認されました。また、2013学年度奨学生採用数については、厳しい寄付金状況を鑑み、800人から700人に削減する原案に対し、「1人でも多く支援したい」「10人でも20人でも可能な限り、上乘せできないか」などの意見も出され議論されましたが、寄付金状況に見合った採用数として、2013学年度は700人とすることが決議されました。



3 バンコクで“米山ナイト”に参加しませんか？

5月6~9日に開催されるタイ・バンコク国際大会期間中に、海外4番目となる米山学友会がタイで設立されることになりました。5月6日夜に創立総会を兼ねた「米山ナイト」を下記の通り開催します。

実は、米山奨学生第1号はタイのソムチャードさんという方です(米山奨学会の前身「米山基金」の支援で来日)。60年の時を経て、学友会が設立されるに至ったその瞬間を、ぜひ皆さまに見ていただき、タイの学友にエールを贈っていただければ幸いです。当日はスペシャルゲストの登場があるかもしれません!

また、今回の国際大会では「友愛の家」に米山記念奨学会がブース出展します(ブースNo.102)。タイの米山学友が皆さまをお迎えますので、期間中、ぜひお立ち寄りください。



★ 米山ナイト ★

日時: 5月6日(日)午後5時半~19時半

場所: ロイヤルオーキッドシェラトン2階 ポンパドゥール

会費: 5,000円

詳細・お申し込みは当会ホームページをご覧ください。登録締め切り4月16日まで。

<http://www.rotary-yoneyama.or.jp/>

4 被災地の学生として何ができるのか—奨学生からの便り—

宮城大学で情報デザイン学を学ぶベトナム出身の米山奨学生、グエン・トウン・ヴァンさん（2011-13 / 仙台西RC）が、「被災地の学生として何ができるのか」との思いで取り組んだという、この1年間の活動を報告してくれました。



夏休みに友達と石巻市でのボランティア活動に参加しました。実際に訪れた現地の状況は、テレビで見るよりもっと大変でした。全国から集まったボランティアの人々と共にがれきを片づけたほか、親を亡くした子供たちと一緒に絵描きをしたり、仮設住宅の方々と料理を作ったりして、心の繋がりを強く感じました。被災者の方から悲しい話を聞いて、あらためて被害の大きさ、怖さを知るとともに、皆さんからは「話を聞いてくれるだけでも心が落ち着いた」と声をかけていただきました。

震災をきっかけに参加したアジア太平洋学生起業家会議では、東北地方の学生として、復興支援ボランティア体験と心のケアの大切さを訴えました。仮設住宅のコミュニケーション不足や断熱性の低い建物構造などの問題をどうすれば解決できるのか、海外からの学生やスタッフ全員で知恵をしぼり、いろいろな提案を考えました。

現在、ゼミの活動として、南三陸町コミュニティ復興支援のため、子供・高齢者の創造性や自立性を高める知育玩具の開発・販売プロジェクトに参画しています。被災者の皆さんの思いもそれぞれで、私たちの考えるものが本当に皆さんを癒し、力になることができるものなのか、試行錯誤で手探りしています。長い復興への道りに少しでも力になれるよう、今後も人の幸せのデザインを目指してがんばりたいと思います。



仮設住宅で一緒に料理をつくって交流
(左:グエンさん)



復興支援の研究活動 —アジア太平洋
学生起業家会議にて。

5 米山をテーマにした例会プログラム — 大宮シティRC —

2012年2月15日、第2770地区（埼玉県）大宮シティRCの例会で、「みんなで考えよう 米山奨学事業」をテーマとするパネルディスカッションが行われました。

通常行われる会長挨拶・幹事報告などの後、同地区米山記念奨学委員長の磯貝九十氏ひさかず、同地区米山学友会会長の李成哲さん、同クラブが世話クラブをしている現役奨学生トウトウさん（ミャンマー）の3人がパネリストとして登壇。

冒頭に3人それぞれが簡単にスピーチをし、その後、司会進行役を務めたクラブ米山奨学委員長の柳澤和豊氏から「奨学生の選考基準は？」「学友会の組織構成は？」「奨学生になって変わったことは？」など、普段会員が疑問に思っていることを各パネリストへ質問し、答えていただきました。

同クラブ会長の伊藤悟氏は、「時間に限りがあり、会員との質疑応答がもう少しできればよかったが、学友会の活動や地区米山委員長の話を直接聞くことができたことは有益だったと思う。今後も継続して実施していきたい」と、手応えを語りました。

